

3-1 松代群発地震の経過

気象庁地震観測所 竹花峰夫

松代群発地震は、間もなく5周年を迎えようとしている。松代にある国際標準地震計（SP-Z）による地震回数は、1969年末まで順調な減衰を示して来た。しかし、これが松代地震のすべてを現していないことは、東大震研の観測結果との差からも察知され、極微小地震観測の特質を示している。

松代地区の地震活動が活発だった頃は、坂井村・東村など、周辺地域の活動はこの回数グラフ上で目立たなかったが、松代地域が平静に近づいて来ると、相対的に目立つようになった。特に、1969年以後、坂井村方面の活動は横ばいで、松代地震の一環とは云っても、別系統のものと考えられ、冠着山・四阿屋山方面では、今後当分の間活動が続くものと思われる。

松代地区の地震活動は、今のままで推移すれば、この地区で発生する有感地震は月に数回程度となり、おもな地震の震央分布は、坂井村を主とした一群と、東村方面のものに分けられるだろう。

しかし、1965年8月以前の状態にまで戻るには、かなりの時間が必要であり、坂井村方面は当分の間注目すべき地域になるであろう。

